

# 感情を読む知性

Keywords | IQ | EI | SEL

## IQと年収・純資産の関係

ザゴルスキは、NLYS79というパネルデータ（1979年に14～24歳であった男女）を用い、2004年までのIQと年収・純資産などを調べた。IQが最も高い層は、最も低い層と比べると、年収は3.6倍、純資産は23倍も高い。



社会的に成功を収めたかどうかを評価するには、その人の経済的収入に注目することが1つの方法だろう。アメリカで行われた次の研究は、収入とIQ（知能指数）の関係を示した興味深いものである。オハイオ州立大学のジェイ・ザゴルスキは、1979年から2004年までの25年間、アメリカ人7,403人を追跡調査したパネルデータに基づき、IQ（1980年調査実施）と経済的収入（2004年時点）の関係などを調べた。その結果、IQと収入には相関関係が見られることがわかった。つまり、IQが高くなるほど収入も高くなることが示唆されたのである。その一方で、別の研究からは、社会的成功や充実した生活にはIQよりもっと大切な能力が必要であることも示唆されている。

## ◆EIの4つの能力

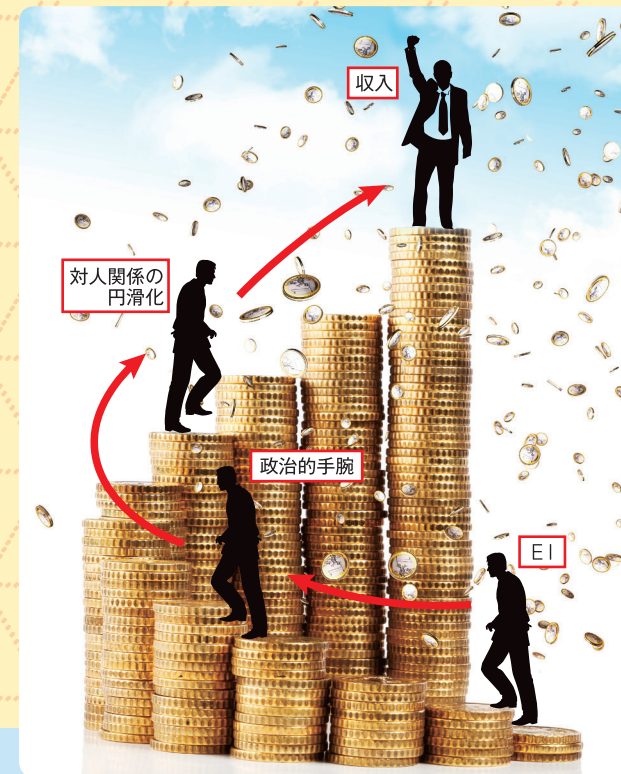
その大切な能力とはEI（感情知性）と呼ばれるものであり、自分の気持ちをコントロールしたり、他人を思いやり、気配りできる能力などのことを言う。例えば、気分次第で態度や言動を露骨に変えたり、他人の気持ちを察することが難

ければ、親密な人間関係を構築できない。このため、会社では上司や同僚との人間関係に悩み、プライベートでは友人とのトラブルに悩まされることになるだろう。言い換えると、EIは対人関係において望ましい形で振る舞うための能力とも言える。確かに、こうした能力はIQではとらえられない。

EIの研究で世界的に知られるジョン・メイヤーとピーター・サロベイによると、EIはおおむね以下の4種類の低位能力、すなわち、①感情の知覚、②感情の理解、③感情の制御、④感情を利用した思考、で成り立っていると考えられている。これらのうち、①感情の知覚は、自分自身や他人（映画や小説の登場人物なども含めて）の感情を適切にとらえ理解する能力である。②感情の理解は、感情が生じた原因を推測し、どのように変化していくかを予測する能力である。③感情の制御は、感情に飲まれることなく、自分の気持ちや感情をコントロールする能力である。④感情を利用した思考は、感情をうまく利用することにより、問題解決や創造的思考に役立つ能力のことである。これらEIの能力を測定す

## EIと年収の因果モデル

EIは年収に間接的に影響する。EIが高い人は、高い「政治的手腕」（仕事で他人の働きをよく理解し、そうした知識を組織的・個人的目標を達成する手段として利用すること）を持ち、それが「対人関係の円滑化」（同僚を思いやり、手助けすることにより同僚のパフォーマンスを向上させること）を促し、より高い年収を得ることにつながる。



る方法としては、メイヤーやサロベイらが開発したMEISやMSCEITなどが知られている。

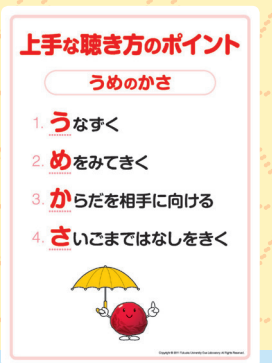
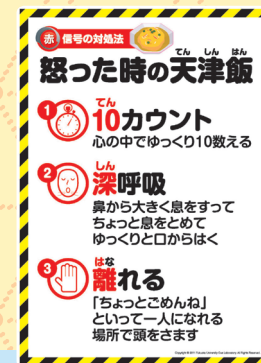
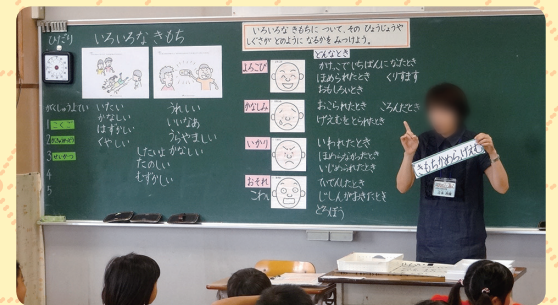
## ◆EIが高いと成功する？

では、EIが高い人は本当に充実した生活を過ごしているのだろうか？ この疑問に答える研究として、仕事場においてEIが果たす役割について調べたカリフォルニア州立大学のトーマス・シーらの研究がある。この研究では、アメリカのチェーン・レストラン9店に勤務する従業員187人に対し、彼らのEIと仕事の能力、また仕事への満足度などが調べられた。その結果、EIが高い従業員ほど、仕事の能力も、仕事に対する満足度も高いことが明らかになった。

この理由については次のように考えられている。例えば、情熱や興奮など仕事に対する前向きな気持ちは、よりよいサービスの提供、任された役割の完遂、店への貢献などに結びつき、それらが能力の高さとして評価される。また、感情のコントロール能力が高いと、仕事に対してストレスや欲求不満が生じたとしても、その原因を理解して解消すること

## 日本におけるSELの実践

上は、社会性や対人関係能力を育成する心理教育プログラムSEL-8Sを小学校で実践している様子。この場面では、表情やしぐさから相手の気持ちを察することについて学習している。下の2つは、非行少年向けプログラムSEL-8Dのための教材。非行少年は言語的知性がやや乏しい傾向が見られることから、教材は認知的負担が少なく感覚・感性に訴えるものが多く、再犯・再非行防止のために用いられる。



ができる。さらに仕事への意欲を高めることもあるだろう。これらのことは仕事に対する満足度を高めることにつながる。

また、ボン大学のタシロ・モムらは、EIが高い人は仕事で高い収入が得られることを示し、その媒介過程には仕事場面の政治的手腕と対人関係の円滑化があるとしている。

EIについては、生まれもった素質やセンスとは異なり、訓練により誰でもその能力を向上できるとの考え方がある。アメリカの一部の学校では、1980年代頃から教科の学習以外にもSEL（社会性と情動の学習）が取り組まれている。SELとは、自己の認知や他者との関わり方など社会性に関するスキルを学ぶ心理教育プログラムであり、まさに子どもたちのEIを育てるものである。日本においても、引きこもりや不登校、教室内での暴力行為が問題化しており、社会性や対人関係能力を意図的・計画的に育成する必要が生じている。一部の小中学校ではSELが実践され、一定の評価を得ている。（大上 渉）